

2学期が始まりました！



子どもたちの元気な声が西小学校に帰ってきました。44日間の長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。子どもたちは、夏休みの宿題も含めて、いつもよりも多くの荷物（夏休み中の宿題）を持ち、久しぶりの友だちとの再会を喜び、あちらこちらで夏休みの思い出やお互いの近況を話していました。子どもたちの身体も少し大きくなって、たくましくなったように感じます。私も久しぶりに子どもたちの姿や声を聞くとうれしい気持ちになりました。

2学期が始まるにあたって以下の3点について、ご留意をお願いいたします。

- ① 9月になりましたが、まだ暑い日が続きますので、熱中症等には注意しながら ご家庭でも健康管理に注意をお願いします。熱中症の予防には、水分補給はもちろんですが、睡眠時間の確保や朝食をきちんと食べて登校することも大切です。体調面で心配がある場合は、担任への連絡や具合によっては無理をさせず休ませることも必要となります。
- ② この時期は、夏休みのリズムからの切り替えが難しいお子さんもいるかもしれません。お子さんが自ら時間の使い方や生活習慣を整えられるようにご支援をお願いします。上手く切り替えができないことで学校に行くことが大きなストレスとなるケースもあり得ます。対応に困ってしまう場合などは、学校（担任等）にご相談ください。
- ③ 2学期、学校は楽しい行事が盛りだくさんです。ワクワク感を親子で共有し、がんばる子どもたちの姿を応援し、一緒に楽しんでいただけるとありがたいです。

教室に電子黒板がやって来ました！

夏休み明け教室に入って驚いた子どもたちも多かったと思います。なんと！夏休み中に大きな電子黒板が各学級に1台ずつ（西小に9台）入りました。

電子黒板とは、PCやタブレットの画面を大型ディスプレイに表示し、専用ペンや指で直接書き込みや操作ができるデジタル機器のことです。従来の黒板やホワイトボードの機能に加え、画像や動画の表示、画面の拡大縮小、データの保存など、様々な機能が利用できます。教育現場などで、授業の効率化、情報伝達の改善に役立てられています。今後導入されるであろうデジタル教科書にも対応しています。

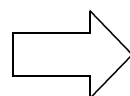


【電子黒板取扱説明会の様子】

これにより、授業がよりわかりやすく、子どもたちにとっては先生の説明内容をイメージしやすい等の効果が期待できますが、学習においては「知る・わかる」から、知識として「理解・定着」し、既習事項を「活用・応用する」ことにつなげることが求められます。教材や指導方法が効果的で効率的なものにアップデートしても、ノートや鉛筆を使ってくり返し練習したり、要点をまとめたりすることは必修であり、両者の長所のメリットを取り入れることが大切だと思っています。

＜お知らせ＞

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただくと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介⑥

がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！

にしりんクラブ絵画教室

7月18日（金）終業式後の図書室で、放課後子ども教室"にしりんクラブ"主催の夏休み絵画教室が開催されました。講師には、元学校の先生で美術の専門家でもある2人の先生をお迎えし、子どもたちのよさを引き出すご指導を頂きました。子どもたちからは「楽しかった！」「校長先生、見て上手でしょ！」「夏休みの宿題ひとつ終わった！」など様々な感想を聞くことができました。改めて、子どもたちの支援をしていただいたボランティアの皆様に感謝です。



【絵画教室で先生の話しを聞く児童の様子】

夏休み中も暑さに負けず、先生たちも切磋琢磨！

夏休みで、子どもたちのいなくなった7月の教室で、先生たちが学んでいます！ちなみに、この日は桐生市では37℃を超える猛暑日で熱中症警戒アラートも発令されていました。主な研修内容は、それぞれの先生が1学期に取り組んだ自己研修テーマの内容の成果と課題についての報告会（例「話し合い活動を活発にするためには」「自己肯定感をたかめるためには」「子どもたちの主体的な活動をめざして」など）その後は、ICTサポーターの方を講師に迎え、タブレットPCの新たな機能の説明を受け操作演習したり、2学期に向けた研修計画を確認したりと中身の濃い研修会となりました。



【効果的なタブレット活用法の研修】

「スマホが脳や学力に与える影響」って ①

7月下旬に西小の先生方と中央公民館で開催された教育講演会に行ってきました。

講演会のタイトルは興味深かったことと、講師がニンテンドーDS用「脳トレ」の監修で著名な東北大学応用認知神経科学センターの榊浩平先生であったこともあり、多くの学校関係者が集まっていました。講演内容は保護者の皆様にも有益な情報が多かったことから概要を全3回に渡って紹介しようと思います。（以下、講演会の概要です）

そもそもスマホは親から与えられている。しかし、多くの大人はそのリスクを正しく理解していない。まずは、大人がリスクを知ることが大切である。人間の脳には、いくつかの部位があり、それぞれ機能をもっている。前頭葉は、主に理性や自制、感情を担っており、その中にある前頭前野は「考える・計算する・理解する」などの認知能力と「がまんする・思いやる・あきらめない・気持ちを伝える」などの非認知能力の両方の機能を担っている。前頭前野は、たくさん使うことで鍛えられ、9才から18才頃に急激に発達し、30才頃をピークにその後は衰退する。小中学生の前頭前野をたくさん使うための有効な手立てとしては、「計算ドリル」がある。脳の活動状況をMRIで調べた実験によると、簡単な計算を早く・正確に行うことで活動が活性化することが明らかとなった。最新の研究では、音読（1日5～10分程度）が最高の脳トレになることが判明している。日本では、昔から読み書きそろばんと言われたが、現在の科学で改めて、その有効性が明らかとなったことは興味深い。スマホでゲームをしている時は、手先や聴覚、視覚をつかさどる脳の部位は活動するが、前頭前野がほとんどはたらくことはなかった。このことから、脳科学的にゲームのやり過ぎは脳の発達によくないということができる。

スマホには「携帯性」「多様性」「依存性」があり、ちょっとした時間があれば気軽に使用することができる反面、依存性が強く、そこから抜け出せなくなるリスクもある。なぜなら、スマホソフトの開発者は、毎日さわってもらう、見てもらう、使ってもらうことで利益を生む中毒性の高い商品開発を目指しているからである。

スマホの使いすぎは、単に時間を無駄にしているといった見方ではなく、脳科学的には、成長期に鍛えなければならない前頭前野を使わないことによる脳の成長の停滞が、その人の将来の可能性を低くしてしまうことにつながることに對して警鐘を鳴らしています。

校長室から

